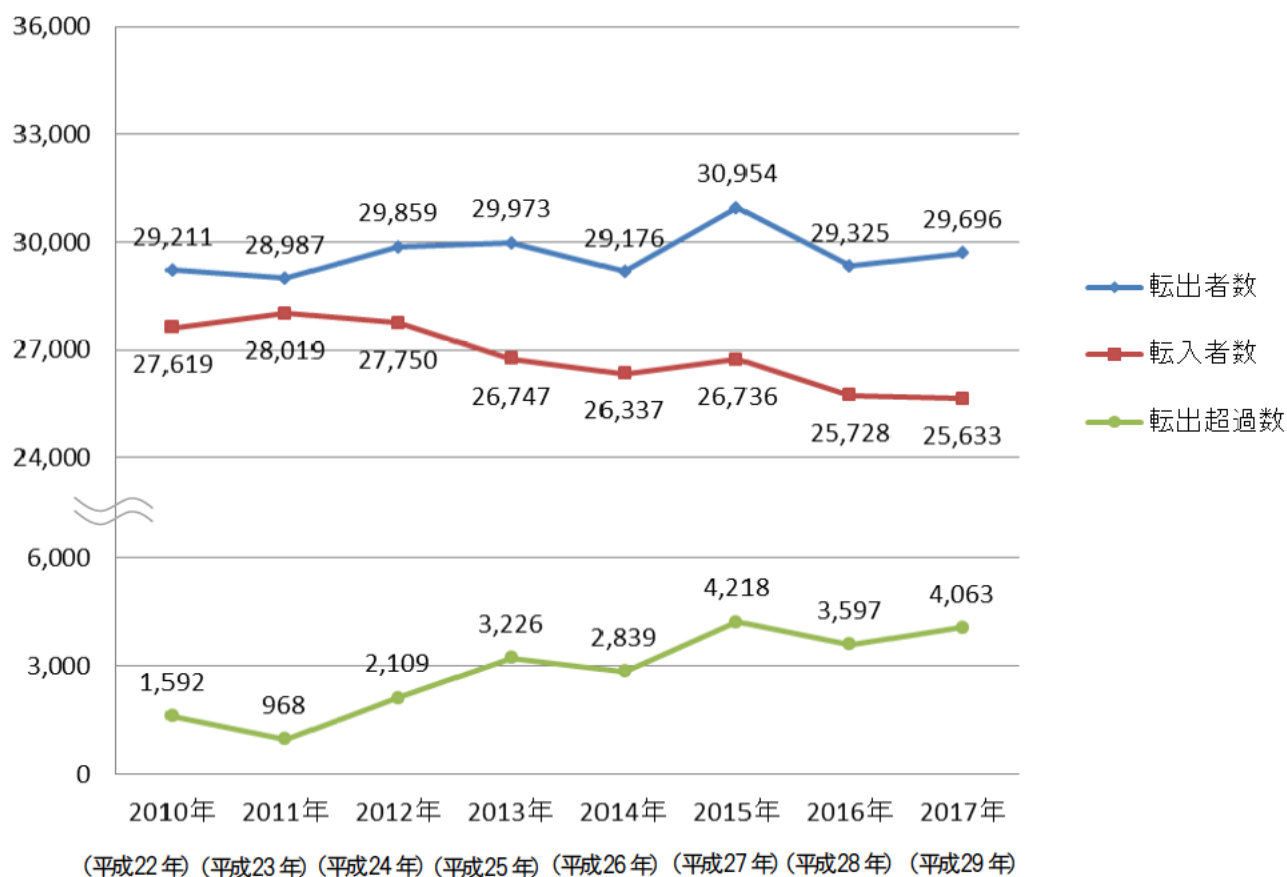


## 三重県における人口移動状況について

2017(平成29)年の住民基本台帳人口移動報告によると、転出超過数は4,063人で、2016(平成28)年の転出超過数3,597人より466人増加した。「三重県まち・ひと・しごと創生総合戦略」における社会減対策の数値目標の出発点となる転出超過数3,000人(住民基本台帳人口移動報告2013(平成25)年と2014(平成26)年の2カ年の平均値、以下「基準値」という)と比べると、転出超過数が1,063人増加している。

また、2017年の転入者数は25,633人、転出者数は29,696人であるが、2010(平成22)年からの推移をみると、転出者数は2015年に3万人を超えたものの、その他の年は29,000人台で推移しているが、転入者数は減少傾向にある。

【図1】 三重県における転出超過数、転入者数、転出者数の推移

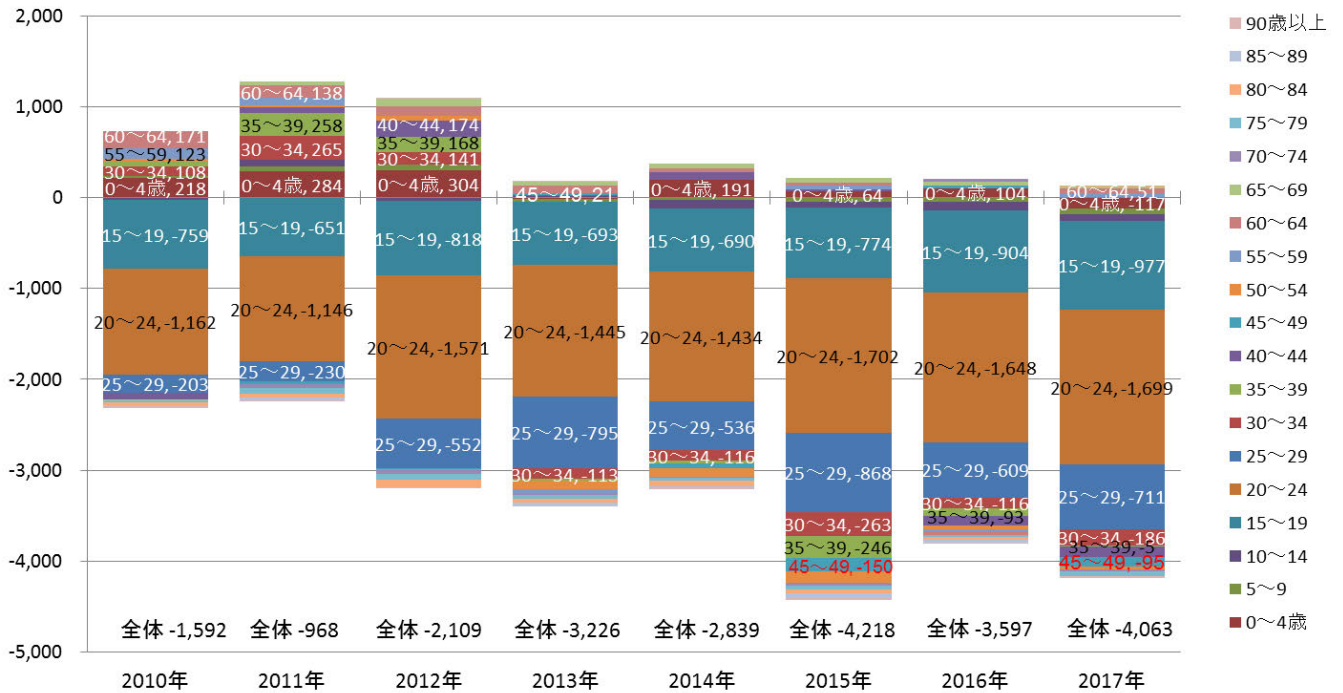


※総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告」から作成

(1) 三重県における転入・転出超過数の推移 (年齢階級別、地域ブロック別)

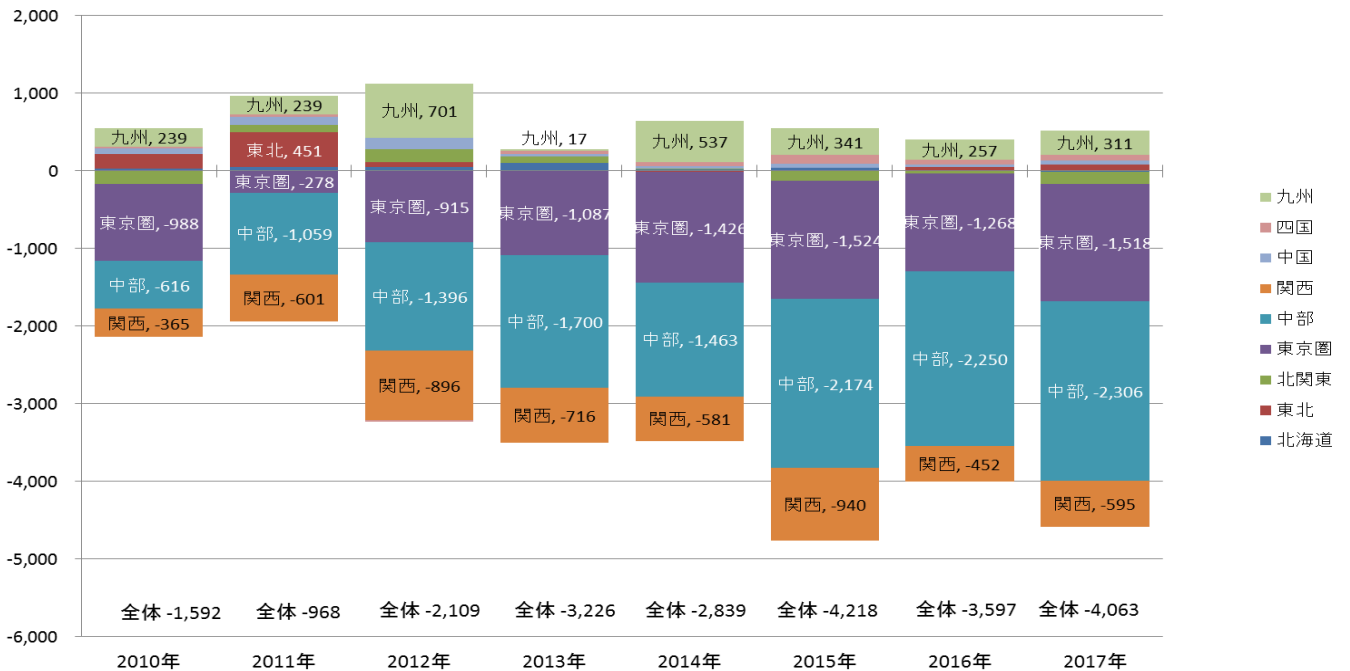
(人) 【図2】 転入・転出超過数の推移 (年齢階級別)

※外国人は含まない



(人) 【図3】 転入・転出超過数の推移 (地域ブロック別)

※外国人は含まない



※地域ブロック区分は下記のとおり

【東北】青森, 岩手, 宮城, 秋田, 山形, 福島  
 【東京圏】埼玉, 千葉, 東京, 神奈川  
 【関西】滋賀, 京都, 大阪, 兵庫, 奈良, 和歌山  
 【四国】徳島, 香川, 愛媛, 高知

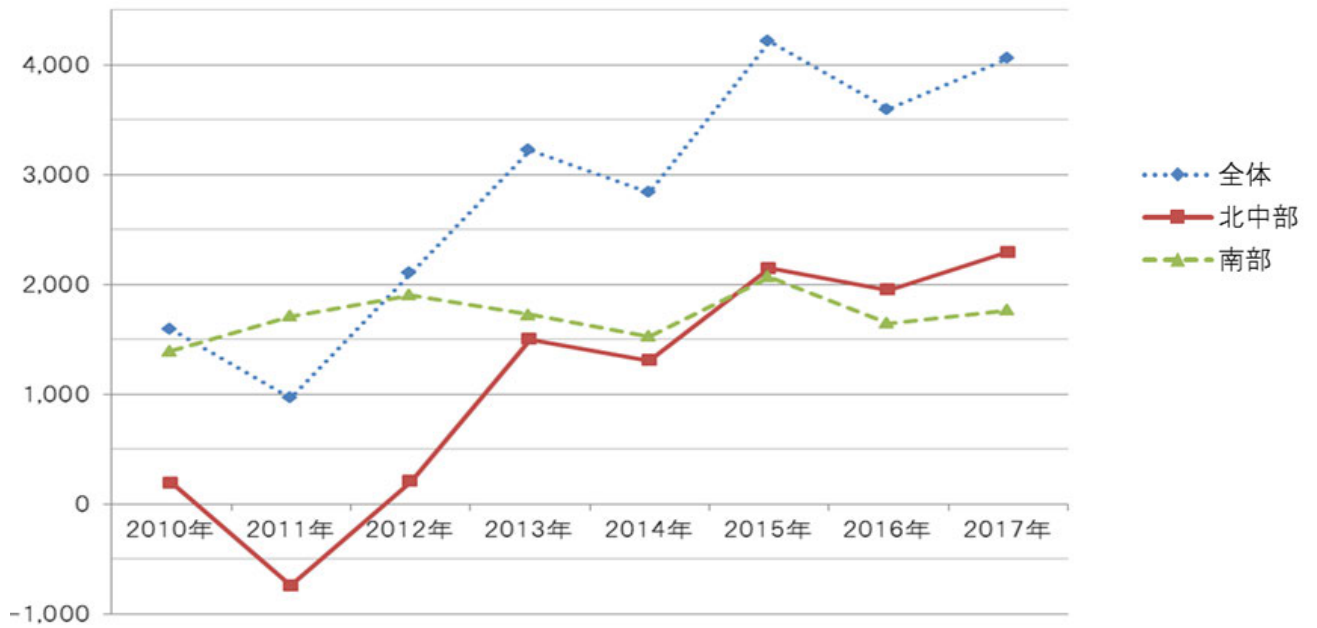
【北関東】茨城, 栃木, 群馬  
 【中部】新潟, 富山, 石川, 福井, 山梨, 長野, 岐阜, 静岡, 愛知  
 【中国】鳥取, 島根, 岡山, 広島, 山口  
 【九州】福岡, 佐賀, 長崎, 熊本, 大分, 宮崎, 鹿児島, 沖縄

※総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告」より作成

2017年の三重県の転入・転出超過数は4,063人の転出超過で、その内訳をみると、年齢階級別では、15歳～19歳(977人)、20歳～24歳(1,699人)、25歳～29歳(711人)の転出超過が多い。また、地域ブロック別では、中部(2,306人)、東京圏(1,518人)、関西(595人)に対して4,419人の転出超過となっている。

(2) 三重県における転入・転出超過数の推移（地域別）

【図4】地域別転出超過数

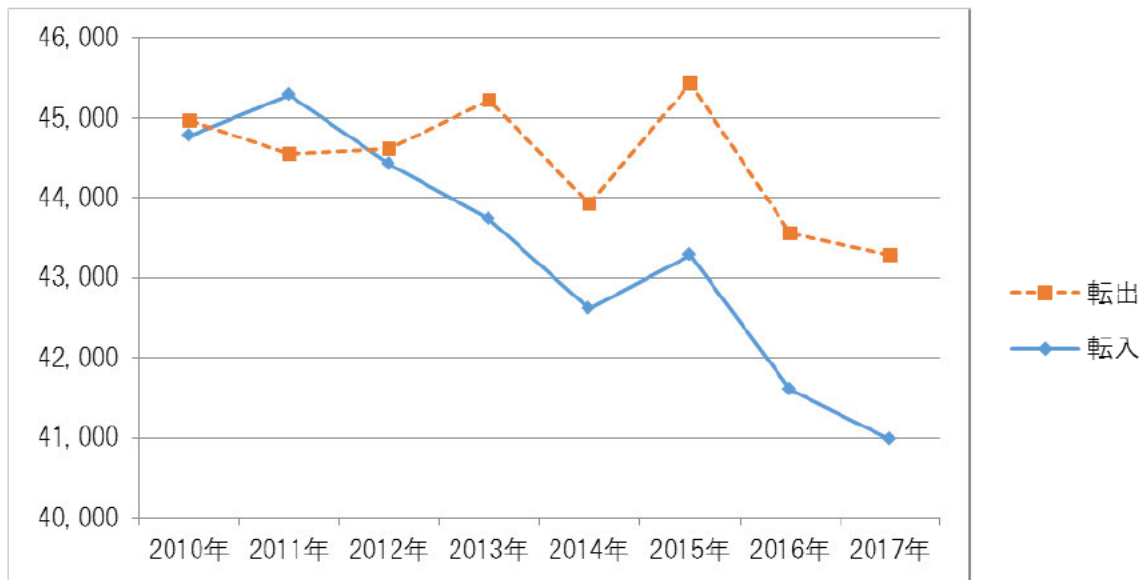


※総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告」から作成

|     | 2010年 | 2011年 | 2012年 | 2013年 | 2014年 | 2015年 | 2016年 | 2017年 |
|-----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 全体  | 1,592 | 968   | 2,109 | 3,226 | 2,839 | 4,218 | 3,597 | 4,063 |
| 北中部 | 196   | -744  | 206   | 1,502 | 1,309 | 2,149 | 1,951 | 2,295 |
| 南部  | 1,396 | 1,712 | 1,903 | 1,724 | 1,530 | 2,069 | 1,646 | 1,768 |

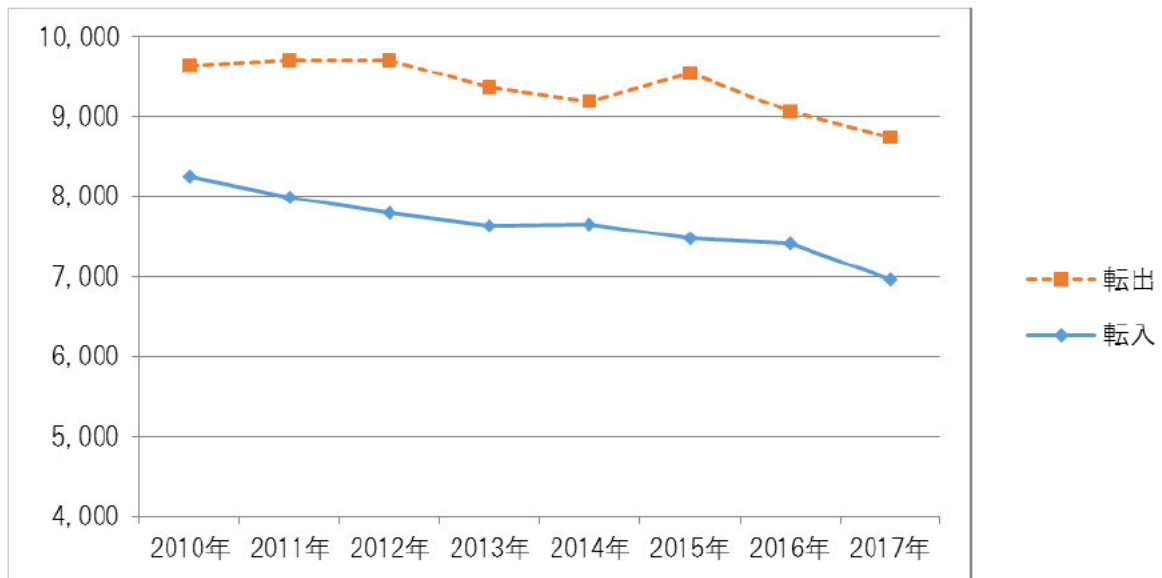
転出超過数を地域別にみると、南部地域では1,500人から2,000人で推移しているが、北中部地域では2011年以降、増加傾向にある。

【図5】地域別転入数、転出数（北中部地域）



※総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告」から作成

【図6】地域別転入数、転出数（南部地域）



※総務省統計局「住民基本台帳人口移動報告」から作成

転入数及び転出数を地域別にみると、転入数は北中部地域及び南部地域とも減少傾向にあるが、北中部地域での転入数の減少が大きい。転出数については、2015年以降北中部地域、南部地域とも減少傾向にある。